



除雪ボランティア  
特集号

除雪活動のボランティアに感謝します

今年、例年以上に積雪が多く、雪かきに追われる毎日でした。高齢者にとって、除雪ボランティアの存在は大変心強く、雪の多い期間に安心して暮らすことにつながっています。対象世帯は毎年、民生委員からの要望に応じ、ひとり暮らしの高齢者世帯に除雪活動を実施しています。

ボランティアの募集を行ったところ、山形県立荒砥高等学校、山形県南部地区郵便局長会（置賜地域）、有限会社山栄測量設計、株式会社鈴木木工務店、衣袋建設株式会社、共栄建運株式会社、白鷹町役場職員から応募をいただきました。

1月22日は、荒砥高等学校の生徒や教職員、町役場職員34名が活動を行い、2月5日は山形県南部地区郵便局長会14名、衣袋建設株式会社5名、2月19日は共栄建運株式会社と

グループ会社の那須建設株式会社、山形緑化株式会社より45名が、生活に大きな支障をきたす場所である玄関先や軒下、火災の危険を回避するためプロパンガスや石油タンクの周囲の雪かきを行いました。

支援を受けられた高齢者世帯では、「雪で全部埋もれて困っていた。ありがたいね。おしようしな」と伝えていました。

3月に入り気温は高くなってきましたが、まだまだ雪の心配は続きます。高齢者が安心して地域で暮らすことができるように、地域での見守りをお願いします。ボランティアとして活動いただきました皆さま、寒中、ご尽力いただきありがとうございます。

（敬称略）



山形県南部地区郵便局長会



衣袋建設株式会社



共栄建運株式会社関連グループ

この広報誌には、赤い羽根共同募金の配分金が使われています。



**除雪活動を終え、荒砥高等学校の生徒から感想が寄せられていますので、一部を紹介いたします。**



初めて除雪ボランティア活動に参加しました。屋根からの雪崩に気をつけながら、みんなで除雪に取り組み、コロナ禍で感染対策しながらできてよかったです。また、作業を終えて、家主さんから感謝のお言葉をいただき、私まで嬉しくなり、達成感を感じました。活動をおし、もっと家の除雪作業の手伝いを行い、ボランティア活動にも積極的に参加していきたいと思いました。  
(1年生)



同じ町でも東と西では降る量が全然違うのだと驚きました。一心不乱に雪かきをしていると、上着がいらぬほど熱くなりました。汗もかいてきました。  
除雪ボランティア活動をするとう雪かきの腕前が上がり、手順も次第にわかってくるのだと思いました。終わった後、お礼を言われてボランティアして良かったという気持ちになりました。お礼の言葉をいただく、心も温かくなってきました。  
(2年生)



● 今年は去年に比べると雪の量が多く、実際に除雪しに行ってみると、地上から屋根まで雪がびっしりで大変でした。特に新雪ではなく凍ったままの雪もあったので、時間がかかりました。ボランティアをしてみると、時間が過ぎるのは早いと実感しました。  
(2年生)



● 今回、除雪ボランティア活動をしてみて、昨年よりも雪が多かったし、高齢者さん達が困っているかもしれないので、私は、高齢者さん達が安心して生活を送って欲しかったので、一生懸命雪かきをしました。少しきつかったけど、「ありがとう」って言われて、すごく嬉しかったので、来年も除雪ボランティアをしたいと思いました。  
(2年生)

● 自分は雪かきを普段していないので、家族の人がどれだけ大変なのかが分かりました。西高玉で作業しましたが、自分が住んでいる所よりも雪が多く、とても大変でしたが、たくさんの人と協力し合いながらすることで楽しくできたし、行った家の人に「ありがとう」と言われたのが、とても嬉しかったです。今後、家でも雪かきをして、家族にも感謝されるようにしていきたいです。  
(3年生)

● 雪かきをするお家を見た時、こんなに雪が多いのかと驚きました。また、ボランティアの重要さがわかりました。とてもきつい作業でしたが、住民の方に喜んでもらうことができ、良かったです。来年も参加したいと思いました。  
(1年生)

